



大岡 元岡維則 著
 政談 村井長卷調合机
 初編 中

遺
 873
 2



873
2

873
2

大岡政談 村井長庵調合机初編卷之二

東京 元岡 雜則 編次

土 三 信

第三回

壯士の鋭刃暗小奸果と砍

故より兎邪と折の例亦あらず。是ハ徳永左郎癖者乃潛伏と知り
 一より。木の間隙に不意ひ入り。大喝一撃。砍付まば。癖者も少は
 あり。有令ふ格と云て。丁々受け。身を翻々。樹立。此境へ退け。左
 左二部端。逆んぐ。破拂ふ。折しも。亦も。一個の城刀を閃々。躍り出。以
 前乃城と助。格令より。砍て。迫る。左二部。二城と。左
 手に奮然。切先。躍り。破捲る。二賊。あり。舞くして。還

大岡政談卷之二



大岡政談卷之二

〇一



大岡政談卷之二

事とほ。助命の恩と報ふふ為らん。我を骨折らん。和まを
 力と添ねと勤むま。之次らやと頭と擧彼が方は。武士一人
 有り。盗丸も容易き事な。ト妙計未だ湧出さね。左右乃應
 と為り。あり。漸さへり有り。ハ此為ま。為あ。必死に
 傷も為べくと換指也。此落る満面に笑と合。二人が胸中納め
 つら。は。為換トあ。進ん。主。握。百。命。の。宝。器。あ。ま。は。是。と
 だに手に入。事十分なり。我。誅。つ。相。譚。人。乃。武。士。を。欺。中。
 路に迷。て。手。間。取。さん。二人。と。主。内。に。傷。ま。ね。時。に。暗。で。示。さ。し。馬
 せん。秘。ま。へ。と。謀。一。合。せ。そ。夜。を。密。法。に。更。軍。く。各。主。座。に。安
 臥。せ。り。是。より。と。他。務。日。夜。と。せ。く。担。ひ。竊。り。は。有。り。細。雨。濕

やう小降。標と清。風。本。葉。と。鳴。し。最。物。を。ぶ。り。今。宵。が。為
 竟。や。わ。三。次。伊。三。郎。乃。二。人。に。一。刀。を。寄。せ。め。已。も。覺。の。長。根
 差。腰。に。挿。入。お。然。が。家。乃。背。戸。口。に。忍。び。内。に。密。子。と。一。眼。不
 あ。も。そ。と。密。に。已。より。先。に。偷。児。と。思。し。ま。が。ま。ま。衣。被。を。被。て。
 面。と。深。く。包。も。家。内。と。密。し。て。悉。財。衣。類。と。擧。集。る。今。や。換。け
 け。ん。を。光。束。な。り。三。人。を。呆。ま。す。も。是。と。翹。て。内。に。忍。び。入。る。は。
 偷。児。強。く。氣。色。も。無。く。傍。を。見。廻。し。汝。等。ハ。何。者。や。と。密。内。も。か。
 入。来。も。ハ。盗。人。か。ん。と。こ。と。ま。め。や。と。怒。掛。り。伊。三。郎。花。茶
 術。と。進。み。出。れ。る。より。汝。等。偷。児。に。有。ん。奪。取。し。品。を。半。山。方。へ
 渡。し。し。り。ま。ね。た。多。く。半。山。同。小。道。を。ま。ま。と。感。し。云。へ。と。賊

肥及してはさみ笑ひ。如何も我偷見なり。物せ。宝を分る。
 謂わ。汝等々。搦手に搦集め。ね。云。傍の産。女。より。長
 持と引搦せ。蓋を明け。名類の敷と改め。中へ細。為
 体。落付。ま。は。せ。初止に。益。果。ま。さ。り。作。務。二。次。只。忙。然。と。し。つ
 更に言葉。出。せ。偷見。作。務。と。思。ひ。進。み。来。り。汝。等。の。成。べ。き。面
 魂。や。り。物。用。の。事。乃。有。り。汝。等。に。思。入。ら。定。て。料。一。の。み。り
 成。ん。我。曾。と。計。つ。迷。り。思。入。先。う。後。百。手。為。物。と。持。ま
 り。たり。は。ま。高。法。物。ふ。為。ま。思。入。あ。れ。だ。望。む。品。を。あ。く。ま。り
 迷。い。さん。が。心。り。や。と。我。ま。さ。ん。だ。他。務。思。入。言。つ。ま。と。け。や。ま
 少。ね。赤。河。作。り。乃。服。一。縷。を。袂。に。置。く。粗。ひ。一。糸。を。汝。等。

得。る。に。有。り。六。速。く。せ。ね。我。脱。置。品。に。違。無。く。金。を。持
 ん。何。程。の。價。と。知。ら。ま。ま。を。渡。ま。や。但。一。糸。を。手。に。の。れ。ま。と
 同。く。偷。人。お。笑。ひ。飾。は。感。れ。色。と。や。〜。福。花。〜。ま。〜。一
 刀。を。か。く。高。金。乃。品。か。らん。我。今。ま。に。金。あり。汝。等。望。む。一。縷
 一。糸。を。其。手。に。回。賊。の。ま。か。り。與。ま。さ。ん。他。の。場。所。へ。送。り
 金。つ。ま。は。我。と。共。く。手。を。ま。く。り。ね。致。す。望。む。品。を。あ。く。ま。り
 には。持。持。を。留。ひ。て。ま。と。搦。る。計。に。用。意。し。つ。ま。に。汝。等。に。送。出。さ。し。不
 致。の。為。業。に。此。務。を。肩。担。と。考。せ。易。き。事。か。り。汝。等。以。知。し。を。持
 り。得。さ。ん。磨。一。刀。の。違。ひ。や。く。我。等。儀。也。と。し。て。之。所。存。を。却。に
 指。圖。ま。し。ん。心。ほ。し。と。て。二。人。の。か。と。引。搦。け。イ。ザ。好。ん。と。逼。る。

に。偷見を悠々と先り進み、歩くと門前に出る折、うら、堂裏に
も思へど、男垣乃外面に居る。何れを賊と密語合せ、代り家の
内へ駈入らせ、作藏等と合点おぼせ、偷見が跡を随ひ、積
り程五六丁余を歩ひ、思ひ、一宇の豪農が住居のつち、小出
より、偷見門ふより、呼つを、ゆるり、二八餘りの妻女、雪洞子
持、二人乃家裏に随ひ、出、扉を、と、左、つ、
娘を、見、甲、一、運、今、
家、に、逢、や、同、偷見娘に、向、
居、今、
物、受、
偷見若、

其長持は、引、伊、に、
更、取、人、と、か、く、物、速、の、
と、句、々、押、隔、ると、偷見、伊、太、市、が、利、腕、丁、と、反、退、け、
乃、鞠、と、隠、し、
承、れ、
と、云、
諸、
く、
に、
を、

伊右衛門三次始てすて碎易し。此後お新に片と侍せし娘と家敷の見
 まは先の日對活せし。お徳は有り。急に二人目加し。流落し
 く手懐を逃去る。伊右衛門ハ潜止つて三次を勧免。去つて
 毛髪まがに作歌れ。阿容もや返す。最も後三。思ふ事届
 うま。せめく。送奴と周轉あちとしく。念と教さん。引返しね
 と神引ハ他流流く押し免。彼も去る者や。懇に手と下しく
 過失有るを悔るとも詮せうらん。左ふ右今宵を返りぬ。亦厚き思
 案も有。屋けきと現術とす。ぬ短慮乃流投。心と周り暗ま
 され。今や消り命も知る。流乃露味溜か。尻引うらげ
 取て返せば。三次も是派や。越ひぬ。此處こそ。送奴が往來乃

路。家敷と教。新町通り。荊棘の内に身と踏踏ひ。今やま
 ると侍も。お徳。智人乃事と謀。やま。慮所有り。折左一郎
 城の担いん。も客。兼く故園に産業の企。有。は地
 長。為。心。せ。お徳。と。初。て。江戸。へ。入。ん。事。極。め。家。ハ。方。計。り。
 真。富。高。友。の。家。を。移。し。移。時。成。成。を。移。し。に。物。微。雨。と。後。
 彼。乃。移。移。に。奪。走。せ。し。折。う。悪。徒。昔。と。詐。欺。り。長。物。ハ。お。徳。
 男。共。り。後。一。再。新。町。に。却。し。小。道。の。傍。に。荊。棘。の。隙。より。流。落
 る。伊。右。衛。門。腰。刀。抜。持。し。忍。び。出。陣。り。政。付。ま。は。心。留。り。と
 左。郎。方。と。躍。し。や。を。取。り。せ。し。積。も。見。せ。し。伊。右。衛。門。が。觸。れ。り。
 く。政。付。の。鮮。血。に。苦。く。叫。び。凄。む。ま。と。再。横。ま。り。報。復。掛。く

切拂ひ刀を拭ひく務に初め見返りもせず悠々とたどり去りぬ。
伊太郎は凍疾を負ひ、遠道踰渡し、後登々、進出せんとす。此際
慌忙伊太郎と助け抱へ如何せん、程遠く他處點見つて
手負を見つゝも眉に皺寄せ、形看んと察し、強く當たると用
ひて、竟に災禍を引中たり。塵居る、亦憂目に遠く速く
鴨居へ助降せしきぞと。三次と共に手負を懐抱し、代るが
背負ふて、漸く宿所乃村進くと進まじや、安堵ある程
はらの伊太郎と見ると、早息も絶えなく、逆も助が、極むかく苦
しげに眼見開き、我姉に空と云者有り。江戸に呻吟居たり。
二人のく我と思ひ、目を擡げなすと。告るるぞ、魂の結忽絶

り無愁の天死不復し思ひもねども冷方かく。死體とそらく
に埋免他為袖と定めく三次に平々も、ハ斯やぐるの連ひ
と。阿家々々地に住らむ思ひぬ、災亦起らんも智ず。吾母と
に他の支人却ね高き、術策有り。結旦宿の人々に眼を告げ。
俄に居の準備一つ、三次をおく鴨居村と去り、三日ひて法
善寺村へ返りあり。与慈治、兼て有り。安否や何みく目と計
く、結居に他危が降るを見らるる心通く、客を伺は。
地善面無げ小幸の顔素と述すも世に亡く、難も、其の娘
甘流高く、我佳計を折す、欺累も、ゆるぎ、我を居留てりねば
況と為、後力をくんとく、返らまに災と残るる、其の力を

うもぬ物と誦免なす人。探索乃若ある事有んも初も買
 房さん掛合に。人と違ひせしあど。努心小秘して告たすひ。吾
 情秘すの事故を生じ。は地のも是を止免難う。誓くは遠慮へ
 別中好く。居所定らば後必も音信せん。三度とも引合せ
 来入り。屋さん組と述べたり。と若も為屋も極わく。登
 儀乃金取と化免に興。然有る身乃之。儀うせふ為。い
 登且と急がれ。いふまわら。化免は人ぐ。主納め別色と若
 三度と若く本意路へ。目。強く。武州浦和の部。と別
 ぬ室ふ。元は客有り。是傾て化免。う。と。時。め。お。ま。ま
 の有。客。信。由。と。お。掛。わ。ら。化。免。思。ひ。に。極。向。と。行。客。駐。ま。つ。く

拘り取と取。如何。化免。忠。年。衝。を。忘。れ。た。も。我。儀。物。を
 欺き取く。代金と渡さぬ。い。ま。ま。逢。く。と。氣。休。能。れ。片。腕。打。折
 号んと。あ。か。ら。眼。を。睜。く。敷。圍。は。作。為。免。有。事。は。心。に。懸。く
 う。弱。と。見。ま。さ。う。い。恐。ろ。う。と。回。く。捨。と。荒。ら。が。忠。兵。衛。能。く。少
 ね。汝。が。云。所。違。つ。り。手。附。乃。金。取。儀。一。明。白。に。言。ひ。細。物。例。乳
 一。ふ。と。無。く。流。金。の。不。系。有。る。の。と。り。於。合。に。随。ひ。拂。は。さ。ふ
 さん。暴。く。し。き。勅。止。を。放。さ。ま。や。と。言。ま。は。忠。兵。衛。益。取。な。り。
 間。小。合。せ。の。謔。言。と。吐。事。な。れ。原。り。現。令。乃。約。束。な。り。杉。徳。づ
 ま。に。人。と。作。欺。や。汝。が。め。き。者。か。斯。成。一。吳。せ。ん。を。腹。し。と。極
 み。掛。る。と。は。方。も。癖。者。力。を。踏。張。り。引。組。んで。捨。伏。ん。と。押。合。た

高臺の較計も有申かれは是より深く
 交加もまゝく。後ハ我言成と物れなす。此後はく
 一片の命と涙まぐ。海に三途づゝと度に更死す。水
 是はく地系や。なす人。此花に重一圓を穿し。紙に色を
 志ま流に染みぬ。志ま流も冷方や。まゝに任せ。命を情に納
 て。互に再會と物。此ハ池の物語り。此酒ををに出さ
 左に別も。偶々三つハ路をまぎ。その日の昔夢に如く。思
 三杯が朋友乃家に投じ。酒とを成たり。葉別況佳
 永在。一帯も。お忍と流を障面の用意と成。家財は皆大地にて
 賣拂ひ。此季下。に被更の衣履と納め。まゝに横墓へ香花をま

向て啓めと共。知色の人。くも。眼もく。二人は酒を起り。あ
 流しも。夢の冷め。肌を透す。地路の風。戦ぐ。梅無枝。花山
 田の寂に。最中。後。お忍と。まゝ。や。二人が。月。曉。室。に。宿。の。愛。ま
 ぬ。種。の。流。お忍の。愛。ま。と。慰。め。命。の。目。を。情。く。漸。末。故。に。込
 玉。梅。乃。の。流。を。流。い。は。め。ぬ。左。郎。周。静。と。ぬ。む。癖。を。く。小
 石川乃。石。長。を。ま。り。新。に。長。を。陽。田。の。辺。乃。お。梅。に。接。し。花
 本。と。流。に。接。く。風。雅。と。る。住。居。に。な。す。雅。友。と。集。て。あ。る。ま
 詩。歌。文。筆。乃。樂。と。設。本。を。流。り。送。る。お。ろ。礼。法。ハ。虧。産
 々。流。を。昔。日。師。乃。同。友。たり。ま。人。と。婦。姑。に。彩。と。お。忍。と。婚。姻。乃
 式。と。取。り。の。史。妻。睦。く。日。々。と。送。る。に。梅。乃。乃。く。室。と。一。日。密

雪路り。人の形を絶つて行く。まゝに言々四方を左に脚を
 徳と相手を酒を隠れ。對的に救ふを修す。窓より外を眺望
 居つるに。忽ち一人の妾女が軒下に下りて。障子雪と凌ぐ見入。
 若くは一歩叫んで息絶。元来左一郎お徳誘く。耻出先妾女を
 お徳に抱起さしめ左一郎をうらうら。中絶の回かきと取り出し。
 一滴に涙入けしは。漸く息を返す。お徳の情々。妾女が
 雨をを見く。こゝ妻が了醫の比友たつ。お徳と雪へる。喉に
 有り。由へ付ひく。堪地。迷はんと。左一郎お徳。見入
 らぬ。人かぬ。危急の病を救ひはせん。悪う人。滑
 いか。雪とや。吾妹子が。推す。時乃友。人老。家に看病。や

りね。吾儕も共に世情やうん。抱く。産後。恨心。中絶。お
 徳の落つ。ま。暫く此変に横持。な。一問の中に。即め。ま。婦
 抱。これ。い。う。て。け。い。妾女。稱有。て。我。に。ま。海。り。醫。ひ。て。さ。け
 る。お。身。い。お。徳。及。に。在。る。や。高。如何。い。て。は。妾。女。在。一。こ。不
 審。せ。一。雪。に。物。問。へ。は。お。徳。い。傍。に。あ。り。て。お。徳。い。の。雨。を
 語り。久。愛。遠。ま。い。せ。く。お。徳。を。成。長。高。く。な。し。て。知。て。は。清。い。今日
 と。い。ふ。今日。お。徳。音。に。何。も。い。は。れ。な。し。ひ。ぬ。珠。の。格。別
 乃。お。拾。容。子。が。有。ら。ぬ。具。に。去。ら。し。く。お。徳。に。問。へ。は。お。徳。お
 満。ち。胸。橋。下。一。て。吐。息。つ。ま。雪。に。ま。ら。し。く。お。徳。の。積。雪。の。雨
 身。が。家。を。と。あ。ら。で。軒。下。に。ま。侍。り。苦。痛。と。凌。ぎ。し。に。絶。今。計



藤掛道十郎

藤掛道十郎
 雪舟の
 難を救ふ

おま

おま

筋汁おしりて棒と蹴伸し。踊の二人へ躍りうまふ武勇に解易
 しく曲考ども。お溜と其場に打控無皆散りに逃失ぬ形も変に
 六左衛門と海に逃へ返り来る徳永左郎お満お徳が堤上におりて
 見ろ。不審に思ひさう故と問に二人は左一郎と見るとり。蘇生つれ心地
 せし。洋にけ場の騒ぐと語りて。此方へ指かりにるに在りたまふ方の
 力とほてこへの悪根と退退け。彼何の民と漸に脱れ是より宅
 へ返らんせし。変はくひひさと若左へ奔りて。夜は静き一夜身
 悦び。武士に向つて。可憐に恩を謝し。お身は如何ぞとなく。姓名と
 索るに。此方も舎精と成。某と吉良家の臣藤掛道十郎彦彦と
 呼ばるよ。けり。所の私用者。は院を通りせし。娘を匂引し。

悪根に出迎せり。愛女の形に似せ。娘をさへ返りし。ゆが癖者の
 肉へ人だも。生捕り。ハ。お念はるうま。官軍の討有り。お
 身をほく車になさん。娘の涙。中ありと。これこそ去らんを
 と。左へ奔りて。お身は如何ぞとなく。姓名と索るに。此方も舎精と成。某と吉良家の臣藤掛道十郎彦彦と
 呼ばるよ。けり。所の私用者。は院を通りせし。娘を匂引し。

目見せな徳に人山組湯が刃のとも味く空り。たきに
 なるかり。勢と徳永氏に妻中屋けわば早に婚約と云はび
 なまのべと。拍中包まず迷たりたり。道十希いおを馬が心事と
 推し。之後せらうい三留たれ。婚後成よ、業も力と成らん長
 田が業十希にる果らるる。あまなまのつ。婚後成よ白たりとて苦し
 りじと。漢まゝにた希も回く。恨び。素王の事と決を速かお
 物と心結なれ。吉日と撰んで結納るん。我に任せると。後活け
 に終てければ。乃希人々に別まをまげつ。拍中路に返りり。
 海に在希。素馬も海と拍中。縁辺の中と示せに。お海も。道十希が
 希男子あに心結び。品管恩と云。附ぬ。形く。拍中と経て。准備も

想りわづ。そ月の。拍中。希希。お海と。道十郎。う。おに。送る。電
 及。形。馬。の。重。と。成。さ。め。る。今。海。を。け。お。お。海。倉。長。田。と
 捕。其。つ。く。著。情。と。整。人。と。お。之。の。由。と。告。め。ん。道。十。希。と。義。氣
 盛。び。く。一。旦。力。と。海。人。と。拍。中。と。馬。道。十。希。と。び。と。さ。ら。り。人
 希。の。難。と。も。う。け。回。道。く。好。敵。と。撰。り。燃。り。に。引。捕。へ。ん。と。推。を
 人。と。獲。ま。け。り。に。道。十。希。と。り。う。お。海。の。拍。中。道。十。希。の。在。備
 と。成。つ。く。希。年。の。お。業。と。明。ま。つ。え。海。の。年。月。と。旬。乃。希。希。と
 希。の。心。結。い。と。漢。ま。つ。道。十。希。の。事。と。あ。い。合。せ。馬。舟。橋。の。お。に。對。ぬ
 希。の。良。形。が。任。在。に。到。り。る。ま。に。こ。い。如何。に。ゆ。お。と。成。て。人。の。一。人。も
 希。の。心。結。い。と。漢。ま。つ。道。十。希。の。事。と。あ。い。合。せ。馬。舟。橋。の。お。に。對。ぬ

と為る。極中。道十部と協た。龍目。合せ。正隣の。入。長田
 が。清。と。高。水。回。に。入。知。者。有。く。と。云。る。其。女。こ。ら。ま。ま。年。の。書。
 お。流。せ。と。云。つ。情。夫。と。傳。つ。て。血。の。書。本。帯。と。云。語。被。り。た。り。持。虎。が。家。
 と。書。て。回。た。ま。う。つ。馬。交。形。に。知。も。あ。ん。本。市。の。道。ま。に。進。び。長。く。り。ぬ。の
 方。金。形。の。村。邊。に。く。り。荒。涼。蕭。瑟。な。る。多。野。と。返。白。井。の。路。と。教。え。
 大。森。に。か。ま。り。本。市。の。間。も。有。ら。ず。速。く。行。な。る。今。有。述。に。別。名。せ。ん。び
 先。に。高。權。道。と。云。ふ。く。り。歩。と。書。く。な。り。と。町。邊。に。教。たり。及。子。身
 大。に。新。始。也。と。云。後。を。述。る。程。有。む。何。不。述。も。揮。り。到。ら。ん。と。
 六。老。鳥。と。勵。一。竟。に。本。市。の。邊。へ。と。志。す。と。ぬ。

大岡村井長庵調合机初編卷之二終

